

## 見ないで信じる幸い

ヨハネの福音書 20 章 24-29 節

### はじめに

今日は、イエス様の復活を記念する「イースター」です。

現代人にとって、十字架で死なれたイエス様が復活したという話は、とても信じ難いものに聞こえます。しかしそれは何も、現代人だけでなく、二千年前の人々にとっても、信じ難い話であったのです。イエス様の「弟子」でさえ、最初は信じられなかったのです。

今日は、イエス様の復活をなかなか信じることができなかった「トマス」という弟子についてお話したいと思います。そこから現代に生きる私たちは、イエス様の復活をどのように信じるのかを考えたいと思います。

### 1. 正直な求道者トマス

イエス様は、十字架で死なれてから三日目の「日曜日」の早朝に復活されました。イエス様はその日の夕方に弟子たちの前に現れて、十字架で受けた「手と脇腹」の傷跡を見せられ、御自分が確かにイエス様本人であることを示されたのです。そして、それを見た弟子たちは、とても喜んだのです。

しかし、復活されたイエス様が弟子たちの前に現れた「日曜日」の夕方、トマスはその場にいなかったのです。何か事情があったのかもしれません。とにかくトマスは、復活されたイエス様を自分の目で見る機会を逃してしまったのです。

弟子たちは皆、その場にいなかったトマスに対して、「私たちは、復活されたイエス様を見た」と嬉しそうに話しました。そして「本当だよ、本当に見たんだよ」と何度もトマスに伝えました。

しかしトマスは、いくら聞いても、弟子たちの言葉を信じるができなかったのです。そして、こう言います。「**私は、その手に釘の跡を見て、釘の跡に指を入れ、その脇腹に手を入れてみなければ、決して信じません**」。彼は、自分の目で見て、自分の手や指で触ってみるまでは、決して信じないと言うのです。

トマスという人は、「疑い深い人」というイメージがありますが、裏を返せば、彼は自分に正直な人と言えると思います。誰が何と言おうと自分が納得するまでは決して信じない、雰囲気や流されて信じるようなことは決してしない、そういう人だったのではないのでしょうか。

イエス様は十字架で死なれる前、弟子たちにこう言われました。「**わたしがどこに行くのか、その道をあなたがたは知っています**」(ヨハネ 14:4)。するとトマスは、こう答えました。「**主よ、どこへ行かれるのか、私たちには分かりません。どうしたら、その道を知ることができるでしょ**

うか」(ヨハネ 14:5)。トマスは、分からないことは分からないとはっきり言う人でした。分からないのに分かったフリをして、その場をやり過ごすことのできない人でした。だからこそ彼は、イエス様の復活についても、周りが何と言おうと、自分が納得するまでは決して信じないと言ったのではないのでしょうか。

## 2. トマスの前に現れるイエス

しかしイエス様は、そのようなトマスを放っておきませんでした。イエス様は「八日後」、つまり一週間後の「日曜日」に、もう一度、弟子たちの前に現れたのです。今度はトマスも一緒にいる時です。

イエス様は弟子たちの前に現れると、真っ先にトマスに話しかけられます。「**あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしの脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい**」。イエス様は、一週間前にトマスが言った言葉をすべて知っておられるかのようにでした。イエス様は、御自身の復活を信じることができないトマスのために、もう一度、弟子たちの前に現れたのです。そしてトマスが納得できるように、御自身の傷跡を差し出されたのです。

トマスは決して、信じたくなかったわけではないと思います。信じたいけれども、信じられない、そういう思いだったのではないのでしょうか。そのようなトマスを見て、イエス様は「頑張って信じなさい」と突き放すのではなく、御自身の方からトマスに近づき、トマスの信仰の迷いを解決するために御自身を現わし、トマスが信じることができるよう導いていかれたのです。

イエス様は、信仰の迷いを持つ者を決して見捨てたりなさいません。イエス様は、信じたいけれども信じられない、そういう者をも愛してくださるのです。イエス様は、そういう者に近づき、御自身を豊かに現し、その人の迷いを一つ一つ解決し、御自身を信じることができるよう導いていかれるのです。

## 3. トマスの信仰「私の主。私の神よ」

さて、復活されたイエス様を見たトマスは、このように言います。「**私の主、私の神よ**」。トマスはここで、はっきりとイエス様が復活されたことを信じます。しかしトマスは、ただ単にイエス様が復活されたことを信じたわけではありません。トマスは、イエス様が「神」であることを信じたのです。

このトマスの信仰は、キリスト教の核心を突いた信仰と言えます。というのは、キリスト教の信仰は、イエス様を「神」と信じるかどうかにかかっているからです。イエス様を愛に満ちた偉大な聖人と認める人は多くいます。しかしキリスト教は、イエス様をそのような偉大な人としてではなく、「神」として認め、信じるものです。そこにこそ、キリスト教の最大の特徴があります。

しかしトマスはここで、ただ単にイエス様を「神」と信じているわけではありません。彼

はイエス様を「私の神」と信じているのです。つまりトマスは、イエス様を自分と関わる「神」と信じているのです。「私」を造り、「私」に命を与え、「私」を愛し、「私」を守り、「私」を救う「神」として、また「私」が従うべき「神」としてイエス様を信じているのです。

キリスト教の信仰は、人格的な信仰です。キリスト教の信仰は、イエス様を「私」と何の関わりもない「神」として信じるのではなく、「私」と人格的に関わり、「私」の人生を導く、生きた「神」として信頼するものです。キリスト教の信仰は、単なる「認識」ではなく、人格的な「信頼」なのです。つまりイエス様を、自分の人生を導く「神」として信頼するかどうか、なのです。

#### 4. 見ないで信じる者は幸いです

では、現代に生きる私たちは、どのようにしてイエス様を「神」として信じることができるのでしょうか。トマスは、復活されたイエス様を見ることを通して、イエス様を「神」と信じるように導かれました。しかしイエス様は、復活してから四十日後に、天に昇って行かれました。ですから私たちは、トマスのように、復活されたイエス様を見ることはできません。私たちはどのようにイエス様を信じればよいのでしょうか。

イエス様は、このように言われました。「**見ないで信じる人たちは幸いです**」。イエス様は、見ないで信じることを求めておられるのです。では、「見ないで信じる」とは、どういうことでしょうか。それは「聞いて信じる」ということです。言い換えれば、「言葉を信じる」ということです。

トマスは、他の弟子たちから、「私たちは主を見た」と聞いた時、その言葉を信じることもできたはずですが。しかし彼は、「聞いて信じる」のではなく、「見て信じる」ことに固執したのです。

イエス様はトマスに、「見ないで信じる人たちは幸いです」と言われました。なぜならその時、イエス様を「見て信じる」時代のが終わりが近づいていたからです。イエス様は天に昇って行かれました。イエス様が天に昇って行かれた時、イエス様を「見て信じる」時代は終わったのです。そして新しい時代、イエス様を「見ないで信じる」時代、イエス様を「聞いて信じる」時代、「言葉を信じる」時代が始まったのです。

私たちは今、「見ないで信じる」時代、「聞いて信じる」時代、「言葉を信じる時代」に生かされています。「見て信じる」時代は、使徒たちで終わったのです。使徒たちは、イエス様の復活を「見る」必要があったのです。なぜなら使徒たちは、イエス様の復活の「証人」として全世界に福音を宣べ伝え、キリスト教の信仰の基礎を据えなければならなかったからです。彼らが力強く、確信をもってイエス様の復活の「証人」として生きるためには、彼らは「見る」必要があったのです。

しかし私たちは今、「見て信じる」時代に生かされてはいません。「見ないで信じる」時代、「聞いて信じる」時代、「言葉を信じる」時代に生かされているのです。パウロはこの

ように言いました。「**信仰は聞くことから始まります。聞くことは、キリストについてのことばを通して実実現するのです**」(ローマ 10:17)。私たちは今、「聞いて信じる」時代、「キリストについてのことばを信じる時代」、つまり「聖書の言葉」を聞いて、イエス様の復活を、またイエス様を「私の神」と信じる時代に生かされているのです。

## **おわりに**

イエス様は、「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」「見ないで信じる人たちは幸いです」と言われました。私たちはイエス様を見たことはありません。イエス様が十字架で死なれたことも、復活されたことも見ていません。しかし私たちは、「聖書の言葉」を通して、イエス様の十字架と復活を信じ、イエス様を「私の神」と信じています。

イエス様は今、天におられます。そして、天から聖霊を遣わして、聖霊を通して今、私たちと共にいてくださいます。そして私たちの人生を導いてくださっています。

私たちは、目に見えないものをなかなか信じることはできません。私たちの未来も、目に見えないものの一つです。私たちは、人生が順調にいつている時は、未来に希望を持てますが、人生が順調にいつていない時は、未来に不安を覚えます。

私たちはどうしたら未来に希望を持てるのでしょうか。それは、「ことばを信じる」ことではないでしょうか。特に「キリストについての言葉」「聖書の言葉」を信じることではないでしょうか。私たちの未来は、目には見えませんが、「聖書の言葉」が確かに約束していることは、復活されたイエス様が私たちといつも共にいてくださることです。

私たちには未来も、イエス様も目には見えません。しかし私たちは今、「聖書の言葉」を通して、イエス様を「私の神」と信じることができ、「聖書の言葉」を通して、未来に希望を持つことができるのです。

私たちは、トマスのように、正直な求道者でありたいと思います。イエス様を信じたいけれど信じられない、また未来を信じたいけれど信じられない、そういう信仰の迷いがあるなら、ぜひイエス様に祈ってみてください。そして「聖書の言葉」を真剣に求めてみてください。決して曖昧にせず、納得いくまでイエス様に祈り、聖書の言葉を求めてみてください。そうすれば必ずイエス様が、トマスに現れてくださったように、私たちの信仰の迷いにも、聖霊と「聖書の言葉」を通して一つずつ解決を与えてくださるはずで

イエス様は言われます。「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」「見ないで信じる人たちは幸いです」。私たちはたとえ目には見えなくても、「聖書の言葉」を通して、イエス様を信じ、未来に希望を持って歩んでいきましょう。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちは、目に見えることを求めて生きています。しかしイエス様は、信じない者ではなく、信じる者になりなさい」「見ないで信じる人たちは幸いです」と言われます。

イエス様がいつも私たちに求めておられることは、「信仰」です。たとえ目に見えない

あなたであっても、また希望を持たない未来であっても、あなたは「聖書の言葉」を通して、信じることを求めておられます。

どうか私たちが、トマスのように真剣に「信仰」を求めていけますように。祈りの中に、また「聖書の言葉」の中に信仰を見出すことができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈ります。アーメン。